

はくぶつかんネット 第50号

(発行)
宜野湾市立博物館
宜野湾市立真志喜1-25-1

慰霊の日写真パネル展

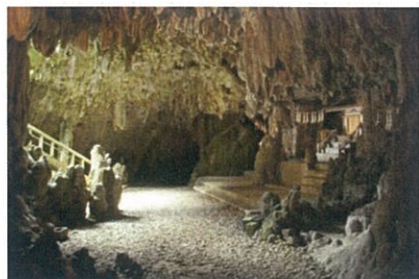
イクサユージュのーん(戦世の宜野湾)

沖縄戦において、宜野湾市でも多くの住民が尊い命を失い、本市の環境も大きく変容しました。沖縄戦終結から今年で69年が経過し、戦後世代が大半をしめるようになった今日、戦争体験者は減少の一途をたどり、戦争の記憶の風化が進んでいます。戦争は、二度と繰り返してはならないことであり、これらの事実を風化させずに語り継いでいくことが大切だと考えています。

【開催期間】 6月18日(水)～7月13日(日) 入場無料

■市内に残るガマ

アメリカ軍が沖縄本島へ上陸し、本格的な戦闘が始まると、多くの人々は戦火から逃れるために、自然の洞窟(ガマ)などに身を隠しました。宜野湾市では、当時の人々が避難壕として使用したガマが、現在でも多く残っています。その中でも、実際に内部や入口を間近で見ることができるガマをいくつか紹介します。



■普天満宮洞穴(普天間)

普天満宮の境内にある普天満宮洞穴は、昔から聖地として知られています。洞穴は西側へ280m続き、戦時中は避難壕として使われていました。

戦時中、洞内での被災はありませんでしたが、1944(昭和19)年10月10日の10・10空襲の際、攻撃を受けた那覇や首里の住民が北部へ大移動をはじめると、宜野湾街道や伊佐から普天間へ道は人々の行列ができ、洞穴や境内も大勢の人でごった返したといいます。宜野湾村婦人会では、避難民に炊き出しの握り飯を作って配っていたそうです。

■産川(ウブガー)の壕(佐真下)

佐真下公園裏ある産川の壕は、もともと佐真下の生活用水として、戦前から戦後の一時期まで使用されていました。現在、井戸としては使用されていませんが、入口は拝所になっています。洞穴は総全長153mで、戦時中は軍の陣地壕として使用されていました。壕の壁や天井は、宜野湾並松の松を使用して補強し、堅固なものにしてあったといいます。

敷地内には、佐真下の慰霊塔「昇華之塔」や「石十三大隊第三中隊之英霊」が祀られています。



■嘉数高台公園内に残る戦争遺跡

沖縄の地上戦では、一般の住民も戦闘に巻き込まれ、多くの人が命を落としました。その中でも、嘉数高地での戦闘は2週間余にもおよび、米軍の戦史に「嘉数地区で米軍が失った戦車22台というのは、沖縄の一戦闘での損害としては最大なものであった」と記録されるほど凄まじいものだったといえます。

嘉数高台公園には、戦闘時に使用された陣地壕やトーチカ、砲弾の跡が残る壁などの戦争遺跡が、今も残されています。



砲弾の跡が残る壁(公園近くの民家から移築)



陣地壕



トーチカ

■追悼と平和への願い…

沖縄戦による住民の死者は15万人を上回り、宜野湾村でも、米軍上陸前は約1万4千人もいた村民のうち3,700人余りが犠牲となりました。

戦後、亡くなられた人々へ追悼の意を表し、平和への願いを込めて、市内には25基の慰霊の塔・碑が建てられています。現在でも、毎年、各自治体により慰霊祭が行われています。



・宇魂之塔(宇地泊)



・嘉数の塔(嘉数)



・はらからの塔(宜野湾)

“はらから”とは、「お互いに同胞で兄弟姉妹」という意味で、住民から公募しました。

沖縄県外出身者の慰霊の塔



・京都の塔(嘉数)

京都府出身の戦没者が祀られています。石碑には京都の大江山の鞍馬石が使われています。



・青丘之塔(嘉数)

沖縄で戦死した韓民族の軍人、軍属の慰霊塔。



・島根の兵奮戦之地(嘉数)

島根県出身の戦死した兵士の冥福を祈って建てられました。慰霊の塔は糸満に建てられています。

沖縄県の人々以外の慰霊の塔も数多く建てられているんだね・・・



予告

夏の企画展

『宜野湾の台地～石灰岩台地でくらす人びと～』

宜野湾市の地形や地質、そしてそこにくらす人びとの生活と自然をテーマにした企画展です。宜野湾市に分布する地質とその特徴についての解説を始めとして、琉球石灰岩特有のカルスト地形が発達したことで見られる凸凹地形や洞窟（鍾乳洞）、湧き水などを取り上げます。また、宜野湾の台地に生息する様々な生き物や、湧き水とともに生活してきた人びとの暮らしについても紹介します。

開催期間：7月30日(水)～9月14日(日)

場所：宜野湾市立博物館

入場料：無料



企画展の関連講座として、市民講座「地形・地質めぐり」(野外講座)を8月24日(日)に予定しています♪

第23回 ぎのわんの文化財図画作品

作品募集!



喜友名の石獅子

我如古の化猫



みんなの住む宜野湾市を見渡してみよう!!
文化財として大切に守られているものや、昔から変わらない風景、長い間受け継がれてきた芸能、小さなころに聞いた宜野湾のむかし話など、今と昔をつなぐものがきっと残っているはず。
夏休みの宿題で、身のまわりで見つけた宜野湾市の文化財を描いて、応募してみよう!!

宜野湾市の文化財には、
普天満宮などがあるよ!



- 対象：市内在住の小学校3年生～中学校3年生
- 作品内容：宜野湾市内の文化財・名所旧跡・伝統芸能・行事・民話・伝説
- 画材：四つ切画用紙で仕上げは自由(例：アクリル・水彩・版画・クレヨン)
- 出品：1人1点のみ。作品は夏休み明けに各学校の担任に提出してください。
- 概要：小学校中学年(3・4年生)の部、小学校高学年の部(5・6年生)の部、中学生の部門ごとに教育長賞(各1名)、金賞(各2名)、銀賞(各5名)、銅賞(各10名)、入選の作品を選出し、展示します。

◆作品展示会◆

- ・期間：平成26年10月1日(水)～10月19日(日)
- ・場所：宜野湾市立博物館 企画展示室
- ・表彰式：平成26年10月4日(土) 宜野湾市立博物館ロビー ※表彰式は教育長賞・金賞・銀賞・銅賞受賞者まで。

子どもコーナー

今回は、沖縄の年中行事の一つ、
チナヒチ（綱引き）を紹介するよ♪



おきなわ ねんちゅうぎょうじ 沖縄の年中行事

チナヒチ（綱引き）

チナヒチ（綱引き）は、沖縄でもっともポピュラーな行事の一つで、県内各地で行われています。旧暦5月から10月がシーズンですが、とくに旧暦6月と旧暦8月に多く行われており、近年では新暦の休日に行われる所もあります。伝統的なチナヒチでは、今年の豊作のお祝い、来年の豊作のお祈りのほか、害虫よけ、雨ごいなどを目的としていると考えられています。



↑ 大山の綱引きのアギエー

本土の綱引きは普通1本の綱を引きますが、沖縄のチナヒチは、ミーンナ（雌綱）とウーンナ（雄綱）の2本をつなげて引き合うのがとくちょうです。綱の先はカナチ（またはカヌチ、カマチ）と呼ばれる輪っかになっており、ミーンナのカナチにウーンナのカナチをくぐらせ、それが抜けないようにカナチ棒と呼ばれる木の棒をウーンナのカナチに通した後に、引きあいます。また、宜野湾市の大山や真志喜のチナヒチは綱を引きあう勝負の前に、“アギエー”という勝負も行います。アギエーでは、カナチ棒をカナチに通す前に、ミーンナとウーンナのカナチを高く持ち上げて、お互いにぶつけて落としあって競います。

参考文献：『沖縄・暮らしの大百科 冠婚葬祭・年中行事・風水』那覇出版社 平成16年

水そうのなかまたち



みんな、よろしくね

はくぶつかんの水そうのなかまを紹介するよ！

テナガエビ

昔から人々に親しまれてきたテナガエビ。宜野湾市内では、大山のわき水などで見るができるよ。その名の通り、オスのはさが大きくて長〜いのがとくちょうなんだ。方言では“タナガー”や“タナゲー”と呼ばれているよ。

きみは知ってるかな？

水そうクイズ！

Q. グッピーには、実はもうひとつの名前（別名）があります。

それは、次の3つのうちのどれでしょうか？

- 1、ヒカリメダカ
- 2、ニジメダカ
- 3、ホウセキメダカ



●メダカとグッピー

グッピーのオスは、尾びれが大きくあざやかな色をしているけど、グッピーのメスはメダカのように落ち着いた色をしているよ。また、メダカとグッピーの違いとして、メダカの子どもは水草などにうみつけた卵からうまれる一方、グッピーの子どもはお母さんのおなかからうまれるんだ。



「登録博物館」になりました



今年の6月で開館15周年を迎える宜野湾市立博物館は、沖縄県教育委員会の審査を受け、今年の3月に「登録博物館」となりました。

この「登録博物館」、はじめて耳にする方も多いのではないでしょうか。登録と聞くと「今までは登録されていなかったの?」「そもそも登録って何?」とさまざまな疑問が出てくるかと思います。

いったい、「登録博物館」とは何なのか、そして、意外と知らない博物館の種類についてご紹介します。

あれもこれも博物館?!

博物館は、取り扱う資料の種類や活動内容、目的など、さまざまな観点から細かく分類されています。分りやすい例として、「美術館」や「動物園」は全く違う施設のようにみえますが、実は2つとも「博物館」という大きな枠のなかに入っています。展示しているものが違うため、呼び方も施設の作りも違うのです。

「水族館」や「植物園」も博物館の仲間だよ!



法律からみる博物館 —登録博物館とは?—

博物館を、博物館法という法律を基準にしてみいていくと、大きく3種類に分けることができ、これらは所管の違いや、建物の大きさなど様々な要件によって分類されています。

- ①登録博物館・・・博物館法に基づき、館長と学芸員(有資格)を必ず配置し、年間150日以上開館している施設で、都道府県の教育委員会の審査を受けた施設。
- ②博物館相当施設・・・登録博物館の要件は満たしていませんが、一定の要件は満たしており、文部科学省や都道府県教育委員会が指定する施設。
- ③博物館類似施設・・・博物館法による要件はありませんが、上記の施設と同様の事業を行っている施設。

※今まで宜野湾市立博物館は「博物館類似施設」でした。



登録博物館になるとどんなメリットがあるの?

「登録博物館」になると、国からの補助金で博物館活動を行うことが出来るようになります。当博物館は、この補助金制度を活用し、これからも地域にねざした文化事業など、魅力ある活動を展開し、市民のみなさんが地域の歴史・文化と触れ合える場を提供していきたいと考えています。



はくぶつかん 展示のアイデア募集中!

今年度、宜野湾市立博物館は開館して15周年を迎えますが、開館以降、研究成果により学説が変わった内容や、新たに発見された資料も出てきました。そのため、博物館の展示内容を最新の研究成果に合わせて、さらに充実させていこうと考えています。

そこで、現在の常設展示室について、みなさまからのご意見を募集しています。「こんな展示があったら親子で楽しめる」「あんな展示が宜野湾市の博物館にもあったらいいなあ」「この展示方法はもっとアレンジしたほうが分りやすく、面白くなるぞ!!」など、みなさんの熱い思いをお待ちしています。



Present ♪

—ポストカード(全5種)—



天女ちゃん



森の川



宜野湾並松

博物館に設置されているリニューアルに関するアンケートにお答えいただくと、博物館の窓口で、もれなく左にある宜野湾の昔懐かしいポストカードと博物館イメージキャラクター天女ちゃんのポストカード(1枚)がもらえます。



普天満宮と宜野湾並松



宜野湾馬場

どれにしようかニャ♪



祝

「はくぶつかんネット」が50号を迎えました!

「はくぶつかんネット」は、年に3回発行している宜野湾市立博物館の情報誌です。

2000(平成12)年の初号から数えて本号で50号を迎えられたのも、博物館にご来館いただいたり、支えて下さる皆様のおかげだと思っております。本当にありがとうございます。

これからも、継続して「はくぶつかんネット」を発行し、博物館で開催する企画展の紹介や様々な情報を皆様にお届けしていきますので、どうぞよろしくお願い致します。



平成26年度・博物館職員紹介

◆ 館長挨拶

今年、宜野湾市立博物館は開館15周年の記念の年を迎えます。例年、当博物館では市民の皆さまに喜んでいただける企画展を開催していますが、開館15周年を記念する本年は郷土の偉人、山田真山氏を顕彰する企画展を12月に予定しています。

その他に慰霊の日になんだ企画展、夏の企画展「宜野湾の台地～石灰岩台地でくらす人びと～」、「文化財図画作品展」、「宜野湾のムラアシビ」展、「ぎのわんの“字”展(嘉数編)」など、盛りだくさんの展示会が開催されます。

平成26年度は新しい学芸担当の嘱託員、横手伸太郎さんを迎えました。そして、博物館友の会も4年目に入り益々充実した活動を続けています。種々のテーマに基づく市民講座も実施していますので、そちらへの参加もよろしくお願い致します。本年度もより一層のご支援をお願い申し上げます。

宜野湾市立博物館 館長 比嘉 悦子

◆ 新職員挨拶

はじめまして!今年度から学芸担当嘱託員として働かさせていただくことになりました横手と申します。

宮崎県出身で昨年度までは琉球大学で考古学を学んで、宜野湾市立博物館が社会人一年目ということで期待と不安で胸がいっぱいです。小さいころから憧れの職業であった学芸員として働くことが出来て心からうれしく思います。

いままでは、お客さんとして、「見る側」でしたが、今度は「見せる側」として宜野湾市の歴史や文化などの様々な情報を発信していければよいと思います!!ぜひ皆様、博物館へ気軽に足をお運びください。

学芸担当嘱託員 横手 伸太郎

- 比嘉 悦子 【館長】
- 平敷 兼哉 【学芸係長】
- 安次富 尚金 【主任主事】
- 武智 方寛 【学芸担当嘱託員】
- 横手 伸太郎 【学芸担当嘱託員】
- 崎濱 比力理 【住民票等交付臨時職員】
- 伊波 菜々子 【住民票等交付臨時職員】



今年度もよろしくお願い致します♪



宜野湾市立博物館 平成26年度の年間行事カレンダー

・企画展や特別展は、無料でご覧いただけます。
・行事の予定は変更する場合がありますので、開催前に博物館ホームページなどで詳しい内容をご確認ください。

展示会

【写真パネル展】6月18日(水)～7月13日(日)

イクサユヌジのーん(戦世の宜野湾)

・慰霊の日になんで、宜野湾を中心とした写真パネル展を行います。
沖縄戦を通し、戦争と平和について考える企画展です。

【夏の企画展】7月30日(水)～9月14日(日)

宜野湾の台地 ～石灰岩台地でくらす人びと～

・宜野湾の地形や地質、自然、そして人びとのくらしをテーマにした企画展です。

【小・中学校連携展】10月1日(水)～10月19日(日)

第23回 ゐのわんの文化財図画作品展

・市内小学生(3～6年生)と中学生の描いた宜野湾の文化財を紹介します。

【秋の企画展】10月29日(水)～11月30日(日)

宜野湾のムラアシビ

・宜野湾市内の中でも野嵩、新城、普天間で数年毎に行われるムラアシビ(村遊び)について紹介します。

【開館15年記念展】12月10日(水)～12月21日(日)

山田真山展

・博物館開館15年を記念して、宜野湾市とゆかりのある沖縄県出身の芸術家、山田真山の企画展を行います。

【文化財市民活用事業企画展示会】1月9日(金)～2月1日(日)

文化財企画展(仮)

・市内に分布する遺跡から発掘成果を公開します。

【地域連携展】2月12日(木)～3月8日(日)

ぎのわんの“字”展(嘉数編)

・博物館と地域が連携し、各地域の歴史や文化を紹介する企画展です。
今年度の“字”展では嘉数区を取り上げ、その特色や魅力に迫ります。

市民講座

① 宜野湾市の戦跡を巡り、語る【野外講座】

講師：平敷 兼哉(宜野湾市立博物館 学芸係長)

日時：6月29日(日) 13時～16時

② 家譜の話

講師：田名 真之(沖縄国際大学 教授)

日時：7月13日(日) 14時～16時

③ 宜野湾の“台地”をめぐる【野外講座】

講師：大城 逸朗(おきなわ石の会 会長)

日時：8月24日(日) 13時～16時

④ 宜野湾のおもろ

講師：波照間 永吉(沖縄県立芸術大学 教授)

日時：9月21日(日) 14時～16時

⑤ グスクめぐり【野外講座】

講師：知念 勇(沖縄考古学会 会長)

日時：10月19日(日) 10時～16時

⑥ 宜野湾の伝統芸能

講師：比嘉 悦子(宜野湾市立博物館 館長)

日時：11月9日(日) 14時～16時

⑦ 山田真山 一その人物と作品一

講師：小林 純子(沖縄県立芸術大学 教授)

日時：12月14日(日) 14時～16時

⑧ 宜野湾のしまくとぅば

講師：野原 三義(沖縄国際大学 名誉教授)

日時：1月18日(日) 14時～16時

⑨ めぐてい！イガルーシマ 一嘉数編一【野外講座】

講師：平敷 兼哉(宜野湾市立博物館 学芸係長)

日時：2月22日(日) 13時～16時

* 室内講座：定員50名、受講料は無料です。

* 野外講座：定員25名、受講料は100円(保険料)です。

【社会科見学、出前講座】

当博物館では、見学だけでなく学校の授業に合わせた体験学習や、博物館職員が学校に出向いての出前講座(宜野湾市内の学校限定)も行っています。どちらも事前の打ち合わせが必要になりますので、お早めにご連絡下さい。

【博物館友の会】

宜野湾市立博物館友の会は、随時会員を募集中です。友の会会員向けの展示解説会やサークル活動などを行っており、市内外、年齢、性別を問わず、どなたでもご入会いただけます。会員特典や会費など、詳細につきましては、博物館窓口やホームページにてご確認ください。

■入館料：無料

■開館時間：9～17時(入館は16時30分まで)

■休館日：毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)、祝日(文化の日を除く)

※火曜日と祝日が重なったときは、翌日の水曜日にも休館です。

その他、臨時休館になる場合もございます。

宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL: (098) 870-9317 FAX: (098) 870-9316

宜野湾市立博物館

検索

詳しくは博物館ホームページにて
<http://www.city.ginowan.okinawa.jp>

おいでよ博物館へ♪

